

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	資源物のリサイクルが進んでいる	
施策名	資源物のリサイクルを推進する	No.28

年度	平成28年度
責任部長	環境部長
主担当課長	清掃対策課長
関係課	施設管理課、農業振興課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
リサイクル(4R)を意識して生活している人の割合(%)	→	82.4	74.3	75.3	73.5	73.9	73.9	87.0
		73.9	75.0	71.4	74.0	70.9		91.3
市民一人当たりのごみ排出量(g)	→	1,106	1,104	959	930	908	897	1,101
		897	887	882	876	852		838
ごみのリサイクル率(%)	→	-	-	-	-	-	-	-
		18.6	18.4	18.1	16.9	16.5		29.7

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

環境破壊による資源枯渇、資材高騰が話題となり、資源に対する関心は高くなっている。リサイクルの重要性が認知されてきており、企業による包装・梱包容器の減量化や民間によるリサイクル活動が盛んになり、資源物の排出量は減少している。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	B 停滞	「ごみと資源の分け方・出し方辞典」を平成26年11月改訂し全戸配付するとともに、平成27年度からはウェブアプリ「ゴミチェッカー」を導入し、ごみと資源の分別の周知を図った。「市民一人当たりのごみ排出量」は減少し順調な推移を示している。しかし、「リサイクル(4R)を意識して生活している人の割合」は、増減を繰り返しながら停滞している。「ごみのリサイクル率」は民間による資源物の自主回収の普及が進んでいるため、市での回収量は減少しているが、社会全体としては資源循環が維持されている。
------	--	--



4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
リサイクルの循環の仕組みができています	市民がリサイクルの必要性を理解し行動している		
容器プラスチックリサイクル事業	資源回収推進協議会事業		
園芸用廃プラスチック適正処理対策補助事業	粗大ごみリサイクル事業		
資源収集事業	資源回収事業		
ペットボトルリサイクル事業	ごみ減量化推進補助事業		
可燃ごみ処理事業	環境循環型農業普及啓発事業		
リサイクルセンター整備運営事業	小型家電回収事業		
資源物持ち去り防止事業			
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価	長期成果の設定は、資源物のリサイクル推進について「リサイクルの循環の仕組みができています」と「市民がリサイクルの必要性を理解して行動している」という切り口で捉えており問題はない。リサイクル率が減少については、民間が積極的に資源物の回収に取り組んでおり、また、回収方法も多様化している中で、市民が身近にある回収場所を利用していると考えられる。少しでもリサイクル意識の向上を図るため、継続的に啓発活動を行っていく必要がある。		
次年度の改善計画	平成28年度より指定ごみ袋をイラスト入りのデザインに順次切り替え、ごみと資源の分別のさらなる向上を目指し、資源となるものは資源として排出していただくよう周知する。また、広報等の紙媒体やイベント時の啓発活動に加え、「ごみと資源の分け方・出し方辞典」外国語版(平成28年2月改訂)や、ウェブアプリ「一宮市ゴミチェッカー」外国語版(平成28年2月導入)を活用することで、日本語を理解できない住民にも周知を図っていく。 【改善】可燃・不燃・粗大ごみ収集事業		

市民からみた計画の進捗状況

□ A ■ B ▨ C

- ・A判定(改善傾向) 35%
- ・B判定(停滞) 48%
- ・C判定(悪化傾向) 17%

